北八ヶ岳縦走

【報　告　者】30 日：K原，31 日：ｆ末，１日：Ｓ川
【日　　時】2009 年 12 月 30 日～2010 年 1 月 1 日
【参　加　者】N尾ひ・K奈・ｆ末・Ｓ川・K原・会員外(1)

≪コースタイム≫

【12 月 30 日】ピラタススキー場(11：30)－北八ヶ岳坪庭[標高 2237m](12：25)－縞枯山[標高 2403m]（13：10)－茶臼山[標高 2384m](13：45)－麦草ヒュッテ(14：25)－高見石小屋(15：50)
【12 月 31 日】高見石小屋(7：30)－中山(9：10)－東天狗(11：40)－テン場着(13：00)
【 1 月　1 日】テンバ(7：30)～夏沢鉱泉(9：30)～唐沢・夏沢鉱泉分岐(11：40)

≪　報　　告　≫

【30 日：K原（天気：晴れ)】

いよいよ出発の日。初心者の私でも参加させて頂けることに感激して胸いっぱいのまま、緊張はピークを迎える。

29 日 19：00 春日原駅集合。P.A で仮眠をとりつつ、30 日の朝には中央自動車道を左に中央アルプス、右に南アルプスといきなり日本アルプスが登場。迫力あり過ぎて大興奮！もうこの時点でだいぶお腹いっぱいです。

30 日 12:25　残念ながら悪天候のため、南八ヶ岳→北八ヶ岳にルート変更。そして登山口はスキー客で賑わうピラタススキー場。スキー客の皆さんと一緒にゴンドラに乗り上昇、1700m 余りのスキー場から高度 2,240m の山頂へ。緊張は高まるばかり。さぁ、いよいよ！いよいよ！登山開始！

この日は天候もよく、青空と雪をかぶった針葉樹の景色がとてもキレイ！実はこの時点で感動して少し泣きそうになった。サングラスをつけようとしたけど雪の白を見たくてやめた。サラッサラな雪の上を軽快に進む。少し進むと、昔からの山小屋らしい可愛らしい北横岳ヒュッテが登場。と、ここでハプニングが！Ｆ氏の手袋が風で飛ばされ、ルートを外れて針葉樹の中

【手袋を追いかけ戻ってきたＦ氏】

に吸い込まれていってしまった！それを慌てて追いかけるＦ氏。「ザックは置いていきなよ～」爆笑するメンバー。おかげで楽しい写真が撮れました。

雨池峠を通ってここから縞枯山まで直登。道を外れた場所に足を踏み込めばズボッと膝くらいまで雪に埋まる。こんなの続けてたら無駄に体力を消耗する一方。慎重に歩かなければ。「翌日への足の負担を減らすためにストックと手を使って足をかばい、振り子みたいに体全体も使って登りましょう。」リーダーN尾ひさんからのアドバイスのおかげで歩き方がだいぶ変わった。明日の事も考えて行動しないと。それにしてもキツい登りもすごく楽しい。景色がキラキラしてるせいかな。

【茶臼山山頂】

光が差し、いつのまにか縞枯山に到着、でも景色は見えず。そのまま尾根道を歩き、茶臼山に到着。雲はかかってるけど、八ヶ岳、南アプルスをはじめとする遠くの山々を眺めることができ、眼下には真っ白な針葉樹！あぁ、とても素晴らしい景色！ここまでこれて本当によかった。寒いけど、すごく気持ちいぃ！そのまま茶臼山からスキーみたくシューと滑り降りる感じで下る。最初は転んでばかりだったけど、慣れたら楽しい。その後、草ヒュッテ前で休憩。

15：50　高見石小屋到着。N尾ひさんの指示のもと、荷物を置いてテントを張るための土台作り開始。雪がサラサラでなかなか固まらず悪戦苦闘。テントを張り、着替えたり準備して、待ちに待った夕食。初日の食担はK奈さんで、豪華なハンバーグカレーを準備してくれていました。雪山のテントで、みんなで寄り添って食べるカレーは、すごく温かくて美味しかったです。ありがとうございました！お酒もちょびっと頂き、これからまた一仕事、そう、水作りです。N尾ひさんが雪を集めてきてくださって、雪とちょっとのお湯を鍋をにかけてゴトゴト…を繰り返し 2 時間位かけて翌朝の全員分のお湯＆水を作ります。雪山での生活は大変だなぁとしみじみ感じた夜でした。

21：00 頃就寝。風の音にビクつき、何故か横っ腹が痛く、なかなか寝付けなかったのですが、いつの間にか眠っていました。

【31 日：ｆ末（天気：雪）】

八ヶ岳 2 日目、昨夜は眠れたことは眠れたが、やっぱり足が冷たかった。

持って行った銀マットは厚さ 7mm 長さ 90cm ほどのマット。寝るときにザックの上に足をのせていたものの、ずり落ちてしまい、とにかく足が冷たかった。

5:00 起床し、準備をすませ、7:30 出発。樹林帯のなだらかな登り。雪は踏み固められていて、歩きやすい。中山手前で、樹林帯を抜けそうだったので、目出し帽を着用した。風が強く、顔が冷たい。天狗から引き返してきた登山者に、「天狗は地獄よ～」といわれた。引き返すパーティが何組かいたが、天狗の方からやってきた人もいたので、気を引き締めて、行くだけ行ってみようと、先へ進む。強い風だが、体があおられる程ではない。

11：40 東天狗登頂。天狗は今回の核心部の一つ。うれしさがこみ上げてくる。

しかし、長居のできる環境ではない。落ち着ける場所を求めて先へ進んだ。

【東天狗稜線】

天狗と根石岳の間は風速 40m くらいの暴風が吹き荒れていた。雪は風に飛ばされて、土が見えていた。時折吹く横殴りの風に体を持って行かれないように慎重に歩く。

すごい向かい風ではあったが、こういう風の中を歩くと無心になれて興奮する。1 時間ほど歩いたら樹林帯に入り、ようやく一息つくことができた。

【東天狗岳山山頂】

根石山荘の周辺は開けており、風が強いだろうということで、N尾ひさんのお友達の八ヶ岳マスターの助言により、根石山荘先の分岐の所に良いテン場があるということなので、今日はそこをテン場にすることにした。

【1 月 1 日：S川（天気：曇り）】

最終日、目が覚めると互いに「あけましておめでとうございます！」と声を掛け合う。朝食はK奈さんが準備してくれた雑煮食べ、正月気分がかなり盛り上がりました。外の温度計の気温は－２０度。樹林帯でこの温度なので、きっと稜線上ではかなり低い体感温度なんだろうな。と思いながらテントを片付け早々に出発。

今日はなだらかな下りが続くだけなので、昨日とうって変わってみんなおしゃべりしつつ、写真をいっぱい撮りながらのんびりと下る。

【カメラを向けるとこのポーズ】

11：30 に分岐にタクシーがくるとのことで、タクシーが待ちくたびれて帰ってしまわないように、f 末君と一足先に急ぎ足で下り、約束の時間に 10 分おくれて到着。タクシーを見つけて一安心。そばにはかわいい柴犬がお出迎えしてくれた。（この柴犬、降りてくるメンバーごとに飛びついていた。）

帰りの車中では、f 末君が用意してくれたちらし寿司を作り、宴会。今日の食事は朝の雑煮、夜のちらし寿司で正月気分大満喫でした。

夏沢鉱泉につくと、車を止めている蓼科ロープウェーにいくために、タクシーの手配をする。夏沢鉱泉の方は非常に親切で、タクシーの連絡先や、どこまで車が上がってこれるかなど、詳細に教えてくれたうえ、温かいお茶までふるまってくれました。しかも、この山小屋に宿泊すると、駅まで無料で送迎してくれるとのことで、機会があればぜひ利用したいなと思いました。

【下山後、車中で宴会】

≪　感　　想　≫

f 末：　今回は急遽参加することになったにもかかわらず、メンバーの皆に温かく受け入れられて嬉しく思います。リーダーの、様々な局面での判断や、ルートの選択、見習うべきところがたくさんあり、いい収穫がありました。晴天には恵まれませんでしたが、すばらしいメンバーに囲まれて、初めて冬山は良いなあと、実感が湧きました。今回の反省点は、軽量化とマットでしょうか。ザック本体の重量が 2 キロくらいだと思っていたら、2.8 キロもあった。もっと軽いザックを持って行ったら、500ml は酒が持って行けたのに。

マットも、1 日目はほどよく快適に寝られたが、二日目は気温が－20 度まで下がり、とにかく背中が冷たかった。やっぱり、冬山にはある程度の厚みのあるマットが必要なようです。

S 川：　一番インパクトがあったのは、やっぱり 2 日目の東天狗～根石の稜線です。

寒さと猛風に心が折れそうでした。その分下山したときは、無事歩ききった充足感でいっぱいでした。稜線上で一番つらかったのはとにかく顔の冷たさ、今回、手袋や靴下は替えを準備したり、凍傷対策に気を使いましたが、目出帽は薄手のもの一枚しか持ってきておらず、自分の呼気で濡れバリバリに凍りついてしまい、頬が痛くて仕方なかった。顔面の防寒対策も怠ってはいけないなぁと思いました。

K原：　初めて手にした道標 9 月号に『年末年始冬山』の山行計画を見つけ、即問い合わせ。ひらめき人間な私が、何が何でも行く！とやる気満々でも、たくさんの方々が関わっているこの山行、本当に参加していいのだろうか？色々迷惑かけてるんじゃないか？と、不安でいっぱいで眠れない日々が続きました。それでもリーダーのN尾ひさん（運転から山行のリーダーまで、何から何まで本当にお世話になりました！）をはじめ、毎週一緒にボッカトレをしてくれたK奈さんや、メンバーの皆さん、温かく見守ってくれた会員の皆さんのおかげでなんとかこの日を迎えることができました。本当に本当にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。そしてご心配とご迷惑をおかけして、申し訳ありませんでした。
八ヶ岳ではマイナス 15℃～20℃で猛吹雪の中、雪山の厳しさを痛感し、とても貴重な体験ができました。最初の雪山があの天候で本当によかったです。
これからは新人らしく、体力＆知識をつけつつ徐々にステップアップしていこうと思っております。（といいつつ、八ヶ岳から戻ってすぐ、新しい日本の山の本を買っちゃいました。）